

# さざんか通信 vol.54

## 25周年記念号



### NPOたすけあいワーカーズさざんか

167-0051 杉並区荻窪5-18-11 サニーシティ荻窪401

TEL 5347-1234, 5347-1130 FAX 5347-1180

URL : <http://www.npo-sazanka.org/> 発行責任者 吉田 恵子

### ♡ さざんかは設立25周年を迎えました ♡

生活クラブ運動から始まったたすけあいワーカーズさざんかは、地域の皆様の応援をいただきながら25周年を迎えることができました。

私がさざんかのお仕事に参加させていただいたのは10年前です。この機会にと、設立時からの総会資料や写真、記念誌等に目を通しました。そこにはさざんかを立ち上げてこられた方々が資金面でご苦労される姿や、新しい事業への取り組みの意気込み、メンバーが多くなっていく中で意思疎通を図っていくための配慮や活動等、生き生きとした姿が感じとられ、感慨深いものがありました。

さざんかは身近な地域社会に働く場を創り出し、今まで陰の労働とされてきた家事労働に陽を当て、社会に有用な労働として位置付けて事業をして先駆的な役割を果たしてきました。社会が育児や介護などの支援の必要性を認めてきたのも、私たちの活動があった結果です。25年も続けてこられたのは、さざんかメンバーの地道な活動の結果だけでなく、地域で応援して下さる団体や皆の温かい応援があつてのことです。とりわけ利用者の皆様一人一人の言葉に支えられ、励まされることが、メンバーにとっていきがいとなっているように感じております。

昨年はコロナ禍で、私たちが一番大切にしてきた「人と人とのつながり」が制限され、悔しい思いをしましたが、設立の理念である「住み慣れたまちで心豊かに暮らしていくために地域でのつながりを大切にし、困ったとき、お互い助け合える人間関係と仕組みをつくり出していく」という設立時の理念を大切に、これからもメンバー全員が一丸となり前に進む決意でございます。

皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

さざんか代表理事 吉田恵子



# さざんか25周年に寄せて

さざんかの一員となって約20年。あっという間であった。今までの歴史を振り返って、印象的なのは「杉並区NPO支援基金」の助成を結構な回数受けて、事業を行っていることである。

それにはワケがある。さざんかを指定してこの基金に寄付をしてくださる方がいらしたのである。

そういう寄付があると、区はお知らせをくださるので申請したところ、助成が決まった。さざんかハイキング、松花堂のお弁当を20人分つくる調理講座、四宮ごはんと星を見る会のコラボ企画など。記録的な大雪のなかでの映画上映会「空想劇場若竹ミュージカル物語」は思い出深い。

寄付者のお名前は教えていただけないので、直接、お礼はお伝えできないことにもどかしさを感じていた。「ありがとうございました」の気持ちでいっぱいである。

さて、自身を振り返ると結構「イイトシ」となった。いろいろなことがあった。

さざんかがあって、さざんかをめぐる地域の皆様がいて、本当に助けられました。感謝！ご恩返ししないといけないなあ。

事務局長 八谷悦子



さざんかに入会し、早いものでもう20年以上が経ちました。

ヘルパーとしての仕事、会計、サ責と沢山の業務に関わらせて頂きました。

今後も、生活の一部である介護を、それぞれの家族がやりやすいようにお手伝いをさせて頂き、少しずつ若いメンバーに引き継いで、地域に根付いた

『NPOさざんか』を盛り上げていって頂きたいと思っています。

介護保険事業  
サービス提供責任者  
都丸紀子



さざんかでヘルパーとして働き始めて気が付けばかなりの時間が過ぎていました。主に障がい福祉サービスの支援に関わってきました。

さざんかに関わる少し前、短い期間ではありましたが有償ボランティアとして障がい福祉施設に在籍し、就労を目指して訓練する利用者さんとの出会いがありました。その訓練の一環で利用者さんと支援者が7~8人のチームを組んで区内の公園を清掃したり、一般企業に出向き業務を体験する彼らを見守る中で、彼らの一生懸命に取り組むそのひたむきな姿に、今まで感じたことのない感動を覚えました。

障がいがあってもなくても普通に生きることのできる社会であってほしいと思います。

先輩たちが25年前に掲げた、たすけあいの精神で利用者さんと真摯に向き合いながら地域のさざんかであってほしいと思います。

障がい福祉事業サービス提供責任者 阿原美佐子



さざんかのメンバーとなり、早いもので20数年となりました。当初は週1~2回程度のケアでしたが、子供の成長と共にケア回数も増えました。それぞれの利用者さんから、たくさん学ぶことができました。中でもケアの度に叱咤激励して下さった利用者さんのおかげで成長できたと、今でも感謝しています。また、難病の利用者さんと涙を流しながら入浴介助したこともありました。何の言葉もかけられず、ただ寄り添うだけでした。

寄り添うことの難しさも無力さも感じました。これからも数多くの利用者さんと出会い、経験を重ね成長できたらと思っています。

介護保険事業管理者  
サービス提供責任者 小原涼子



私がさざんかに入って13年が経ちました。はじめは自立援助サービスや区の産前産後のケアに入り、毎回緊張しながらも、喜んで頂けることが嬉しくて、どんどんやりがいも感じられるようになったことを覚えています。

数年後にヘルパーの資格を取ってからは仕事の幅も広がり様々な経験をさせて頂いていることに感謝しながら過ごしています。

これからも、利用される方にとってより良い支援が出来る様、気持ちに寄り添いながら丁寧なサービスを提供していきたいと思っています。

ACT自立援助サービス事業  
産前産後支援ヘルパー事業  
責任者 岩本律子



1996年3月

1996年3月30日杉並産業商工会館において設立総会が開かれ、ACTで28番目のワーカーズとして誕生しました。

代表 石黒久美子 メンバー28名

さざんかのはじまり



メンバーの早川さん宅の2階6畳間を事務所として低料金のお家賃でお借りしていました。4年7か月、お世話になりました。



事業所名はメンバーに募集し、杉並区の区花「さざんか」の名前を付けました。



1996年～1999年  
2008年～2009年  
代表理事 石黒久美子

くさざんか劇団

「たすけあいワーカーズさざんか」＝「さざんか劇団」の時代があったことを知る人は今や少なくなった。

第一回は設立総会で上演した「奥様はワーカーズ」。主演女優は魔女の黒いとんがり帽が似合うイシグロミコ。『毎日夫を仕事に送り出した後、どこかへ出かける不審な動き。今日も外出か？ いつも嬉々としてなぜか楽しそう！どこへ何をしに出掛けているのだろう…』

そんな出だいで、人形劇ではなく生出演の披露だった。後にも先にもイシグロの主演は一度きり。



その後も「雨二モマケズ 風二モマケズ」はACTのイベントで上演したり、仕事は順調だったがさざんか劇団も忙しかった。「銀河鉄道＝介護保険号2000年＝」「子育て支援 今と昔」、認知症のおばあさんを登場させた「花咲かじいさん」等々、仕事を終えた夜に集まり練習できたのは若かったからかなあ…。



脚本・演出・人形制作すべてを美大出身のHさんが担当し、それはそれは素晴らしい芸術作品だった。

2000年10月28日  
事務所を現在のビルに移転

＜和合の時＞

介護経験ゼロに近い主婦たちが、志しひとつにして「たすけあいワーカーズさざんか」を立ち上げた。4年後には介護保険事業にも参画し、介護保険バブル期を駆け抜け再度代表を引き受けた時、さざんかは10年選手と初心者、他事業所から転職した者の混同チームになっていた。つまり、どちらの時期も「たすけあいワーカーズさざんか」を強固にするため、和合することが求められた時代だった。それぞれの部署でのびのびと力を発揮してもらいたいと、雰囲気づくりに気を配った時でもある。

常々さざんかは有能な自立した人たちが集まっているワーカーズだと思っている。それ故に、意見が合わず何度議論の時間を割いたことか数知れず…。その積み重ねが今を作っていると思うと、エールを贈るだけになってしまったが、「嬉しい」の一言に尽きる。

＜自己評価は何点？＞

＝今の自分と一緒に働きたいと思うかどうか＝考えてみたことがありますか？

ケアの内容によっては生死を分ける場面にも遭遇する命がけの仕事がたすけあいワーカーズ。常に自分の働き方を俯瞰して眺め、自問自答しながら判断を下さなければならない厳しい仕事。だからこそやりがいがある。ご利用者と共に生きているのだと、毎日体験させて頂いていることに感謝したい。

ご利用者の名前は忘れてしまったが、地域とケア内容を聞いて、「アア、あの方ね」と顔が浮かぶ。お別れした方も…。

たすけあいワーカーズとしてこのやり方でいいのか、間違っていやしないか、他の方法があるのでは？等、常に皆で疑問を共有しながら進めてほしいと思っている。応援しています。

## 2000年

### 介護保険制度に参入

保険制度に参入するかどうかの議論を交わした結果、NPO法人を設立し参入を決定した。

介護保険制度が始まって、最初は保健所のヘルパーさんについて訪問した。介護保険が始まったところは緩やかなケア内容で認知症の利用者さんの話し相手を2時間したこともあった。病院の付き添いも介護保険だった。

### NPO法人設立

1人ひとりが自分本来の生活を大事にしていけるノーマライゼーションのまちづくりを目指して、非営利活動法人として歩むことを臨時総会を開いて決定確認しました。

#### <あらすじ>

2人の知的障がい者の少年が、言葉も習慣も違うアメリカでそれぞれの「可能性=able」を広げてくドキュメンタリー映画。

#### 映画「エイブル」上映会

知的障がい者への理解を求め、広報として杉並区と共催で、映画「エイブル」の鑑賞会を実施。約1000名の方が鑑賞する。



#### さざんかサロンの開始

誰もが集まって交流できる居場所を目指してサロンを開始する。メンバーのお宅を貸して頂いて交流の場にする。



2000年～2003年  
代表理事 西脇世津子



さざんかはホームページの（団体概要の）「これまでの歩み」にあるように1996年の設立から、ACT自立援助サービス、介護保険事業、区委託事業、障害者総合支援事業、地域交流事業などを、「誰もが普通に暮らし続けられることをめざし」メンバーの力を合わせて進めてきました。

私は、さざんかの活動開始に合わせて3級のヘルパー資格を取り、自立援助サービスに入りました。それが地域に係わる私の第一歩でした。事務所当番を勤めて、3時間300円の手当を受け取ったのも懐かしく思い出します。

その後、社会変革となる介護保険制度が2000年にスタートすることとなり、「私たちに制度の仕事ができるのだろうか?」、「法人格のない事業者が参入できるのだろうか?」、「NPO法人を取るとはどういうことなの?」などさざんかは大きく揺れました。

その中で、地域で継続して活動するためNPO法人となり、自立援助サービスの利用者が継続してさざんかのサービスを受けられるよう参入していこうとメンバーの意見がまとまり、2000年4月にさざんかは次のステップに踏み出しました。

NPOを取得する11月まで、区の「基準該当事業者」として運営し、法人格取得後に都の指定事業者となりましたが、その間分からないことばかりで、手探りながらみんなで力を合わせて、知恵を出し合って乗り切りました。

その後も新しい局面を迎えるごとに、私にとっても多くのことを学ぶ機会となりました。

これからも大小いろいろな社会変化があり、さざんかとして決断をしなければならない時があると思います。そんな時にはメンバーのみなでさざんかはどこに向かうか考えて、ACTや関係する地域の方々と協働してまた次のステップに進んでいければと願っています。

## 2005年

### さざんか10周年記念の集い

阿佐ヶ谷地域区民センターにて



さざんかハイキング開始  
知的障がいを持つ方たちと  
地域のサポーターと一緒に  
楽しい一日を過ごしました。



## 2006年

### 要支援家庭育児支援 ヘルパー事業開始

支援の必要な家庭に対して  
ヘルパーを派遣する事業が  
開始された。



布の絵本



### 2004年～2007年 代表理事

浅沼幸子



たすけあいワーカーズさざんか設立25周年おめでとうございます。  
杉並にたすけあいワーカーズを作りたいので手伝ってくれませんか  
と声を掛けられたのは、1995年の秋のことでした。  
当時の私は、10年以上携わった食のワーカーズを止める準備をし、  
ワーカーズに関わる事はもう終りにしたかったのに 何故今？  
葛藤しながらさざんか立上げ準備会に参加した事から始まり、現在  
まで本当に長い付き合いになってしまいました。

まだ25年しか経っていないの？と思う程、現在落ち着いた活動を続けているさざんかを外から眺めていますととても感慨深い思いがあります。

さざんかを退職し10年が過ぎようとしていますので、現在活動している方々にはそれ以前のさざんかの成り立ちは想像出来ないのではないかと思います、副代表、代表理事を務めた6年間の思い出話を記させていただきます。

2000年に始まる介護保険制度の仕事に参入するか否か定例会はいつも喧々譁々議論を交わし、何度も話し合っ決めて来ました。基準該当事業者として参入したものの、初めての制度のため、国もケアマネも各事業者も手さぐり状態のスタートでしたから分からない事ばかりで、仕事をしながら覚えて行くしかありません。失敗の連続でした。パソコン等無い時代でしたから、間借りの事務所には電話一台と計算器をたたきながら手書きの請求事務。コピーを取るためコンビニへ走り、毎月10日×切りのレセプトを郵便局へ持参。ほっとしたのも束の間計算違いではじめての請求は没。初年度4月、5月は無収入となり、借金をして対価を支払う大失態の始まりでした。

杉並区から無利子無担保10年返済の立ち上げ資金を借り、事務所を開設（現在のさざんか事務所）、法人格の必要を感じNPO法人を取得、指定事業者になる迄短期間でよくここまで持って来たものだと。毎日が目の回る程の忙しさで今思い返すと当時の状況は神がかっていたように展開していきました。さざんかの事しか考えてこなかった運営に全身全霊で打ち込んでこられた事は若かったから出来た事でしょう。必死で過した日々は懐かしく楽しい思い出となっています。日本人は変化に耐える能力、変化を起す能力に優れているそうです。大きく変化した時代に立ち合えた事は私に取りまして大きな糧となりました。

脈々と伝えられた歴史と向き合いこれからのさざんかの発展のため活動を進めて行って下さい。

## 2007年

### ゆうゆう館上荻窪館の 受付業務を受託

高齢者のいきがい、生涯現役社会の  
地域拠点とする目的でゆうゆう上荻窪館  
の運営を杉並区より委託される。



### タオル帽子と 布の絵本づくり

抗がん剤治療を受けている  
患者さんにタオル帽子を贈り  
たいと、縫いものの得意な方たちがボランティアで作  
る活動を始めました。東京衛生病院に寄付をしました。



## 2010年

ゆうゆう館事業評価優秀活動団体  
として杉並区から表彰される。



# 2015年 ゆうゆう四宮館の 受付業務を受託

2011年3月11日  
東日本大震災のため  
12日に予定していた  
15周年記念パーティ中止



**てらこや四宮**  
現在は地域の高齢者の  
生きがいの場・小学生の  
居場所となっています。  
中学生になっても引き続  
き通ってくれているお子  
さんもいます。

## 2016年 さざんか 20周年記念の集い



認知症のおばあさんが登場する人形劇  
「花咲かじいさん」を皆さんに見て頂きました。



### 四宮ごはん

お料理はさざんかメンバーが作り、  
館の利用者さんには、ボランティア  
で配膳のお手伝いをして頂いていま  
す。  
食事の後には地域の特技を持った方  
をお呼びして高齢者から赤ちゃんま  
で幅広い交流が持てるような企画を  
取り入れています。

## 2017年

知的障がい者の  
移動支援事業開始



## 2010年～2017年 代表理事 豊泉惣子



さざんかに入った頃は子育ての真っ最中。  
そのような中で、子どもの事を気にしながらも、  
自分の空いている時間に社会参加できる事はとても  
魅力的。  
先輩の方達が家事援助や介護未経験の私に、ケアの  
イロハを1から教えてくれました。

「あなたがこうして仕事を頑張ることが出来ているのは、子ども  
たちがおうちでちゃんとお留守番してくれているからなのね。」という  
先輩の言葉は、仕事をしっかりやりたいと思いつつも、家に置いて  
きている子どもたちが気になっているのを、わかってもらっているんだ  
ととても嬉しく感じられました。

子育ての悩みを聞いてもらったり、子どもの体調を気遣ってもらえ  
る職場だったから、途中で辞めずに、一步步スキルアップしながら  
続ける事が出来ました。

地域の普通の主婦が自分たちの手で働く場をつくり、社会に問題意  
識を持ちながら課題を解決するために主体的に組織を動かしていく事  
はとても大きな価値があると思います。

お互いさまのたすけあいは利用者にとってだけでなく、互いの状況  
を理解し合う、働く人にとっても安心なしくみです。

これからも一人ひとりの知恵と力を出し合い、地域になくしてはなら  
ない優しいさざんかであるようにと願っています。

### 地域交流会

利用者の方々や地域の皆さんと楽しい遊びで盛り上がり  
ました。



### ACT会員の集い

美味しいおやつと楽しいおしゃべりで  
笑顔があふれる時間でした。



## 2020年



### さざんかフリマ倶楽部

ACTのいきいきサークルに登録し、  
西荻窪の地域で交流の場にするために、  
フリーマーケット開催しています。





さざんかメンバー





## 25周年を振り返って座談会を開催しました。

楽しい話、思い出に残る話など聞かせて頂きました。



ヘルパーの事業が世間に認知されておらず、利用者も一般の人も「単なるお手伝いさん」というように見られていた。掃除や調理の仕事が多く、調理の評判は良かった。

ヘルパーの仕事を通してたくさんの人との出会いがあり、いろいろな生活の仕方に触れて勉強になった。家事のノウハウを学んだり、利用者さんの趣味や好きなものに合わせることもできるようになった。仕事をしながら学んでいると思う。

### 〈参加者〉

- 立花 智美さん
- 佐久間 瑠美子さん
- 芝崎 妙子さん
- 大久保 登志子さん



さざんかで育児・介護の社会化を目指しているという話を聞きインパクトがあった。メンバーは若くて、小学校や中学校の子どもさんを持ちながら仕事や活動をしていた。すごいと思った。孫を連れて電話番に行った。



ありがとう  
ございました

さざんかの活動は、これまで女性が担ってきた育児や介護のアンパイドワークを社会化していくもので、生活クラブの運動だと教えてもらった。今考えると先進的な考えの運動で、社会の流れが後からついてきて、介護保険や産前・産後のヘルパー事業につながってきていると思う。

### 働く仲間募集中

ヘルパー資格がなくても  
短い時間でも働けます。  
子育てにブランクがあっても  
大丈夫♪(研修補助あり)  
あなたもさざんか  
お仕事してみませんか？  
お気軽にお問い合わせください。

さざんか事務所  
TEL 03-5347-1234

### 1円寄付のお願い



いつもたくさんのご寄付や賛助会費をいただきまして本当にありがとうございます。私たちの活動への深いご理解に感謝させて頂きながら大切に使用させて頂いていきます。これからもさざんかは、より良いNPO活動を行って参りますので、皆様の温かいご協力とご支援をよろしくお願い致します。

#### 〇賛助会員

- 個人会費 1000円
- 法人会費 10000円

#### 「振り込み先」

東京三菱UFJ銀行 荻窪駅前支店  
普通口座 3863106

名義 特定非営利活動法人  
たすけあいワーカーズさざんか  
代表理事 吉田 恵子

### 編集後記

- 非常に楽しい編集作業でした。30周年記念誌にはどのようなことが載るか、楽しみです。大島
- 今回、編集作業の中で、さざんかにとっても沢山の方々が関わり、いろいろな想いから今につながっている事を知りました。これから先の未来につながるお手伝いが少しでもできたら嬉しです。大竹
- 設立から25年間を知ることができる良い機会となりました。私も仕事をしながら学んでいきたいと思ひます。保見
- 25周年記念誌の作成に携わることができ、さざんかの歴史を改めて振り返る良い機会を頂けて良かったです。ありがとうございました。長谷部
- 記事を寄せて下さった皆さん、ありがとうございました。  
編集に参加して下さったメンバーの皆さんご苦労様でした。吉田

